六万石居城大津京極宰相高次　若州小濱江所替　慶長五年ヨリ　三万石戸田左門一西　同高同左門氏鐵　元和三年攝州尼ケ崎江所替　元和三年ヨリ　三万石本多縫殿助康俊　嫡子下總守俊次代ニ三州西尾江所替　元和六年ヨリ　三万石菅沼織部正芳定　寛永十一年丹波龜山江所替　寛永十一年ヨリ　七万石七万石川主殿頭忠綱　嫡子昌勝代ニ勢州龜山ヘ所替　慶安四年以後　本多下總守俊次　同高同兵部少輔康將　當城主　同　六万石隱岐守　外壹万石舍弟伊豫守領之、兵部子也、隱岐守從弟也、

同國仁正寺　江戸ヨリ百六リ　壹万八千石市橋下總守

同國小室　江戸ヨリ百六リ餘　壹万二千石小堀和泉守

同國大溝　江戸ヨリ東海道百二十七リ美濃路百十一リ　二万石分部隼人正

同國御代官

二百石土山猪飼次郎兵衛　六百石永原猪狩十助　六百石大津小野半之助　二百石大津小野長左衛門　二百石一且吉兵衛　六百石小堀源右衛門

二百石金丸又左衛門

同大津御藏衆

福島八左衛門　鈴木三左衛門　布施庄右衛門　長坂新右衛門

〔倭名類聚抄五國郡〕近江國國府在ニ栗本郡ニ、行程上一日、下半日、

〔伊呂波字類抄安國郡〕近江國　栗本府

〔近江國輿地志略二建置沿革〕國府　今按るに、勢多橋本村の邊ならん歟、順和名抄に曰、國府在ニ栗本郡ニ云々、拾芥抄にもかくのごとく云るされたり、臣勢多をもつて國府といふもの私說にあらず、延喜式の齋宮式に、頓宮は近江の國府とあり、花鳥餘情に、瀨田の頓宮は、彼齋宮の御額の御櫛を徹して、宮に入たまふ處なりと云るせり、これをもつて見るときは、國府を勢多とするもの明なり、